

1. イチイ

科名：イチイ科 学名：Taxus cuspidata Sieb. et Zucc 別名：オンコ、アラ
ラギ
漢字名：一位、水松 英名：Japanese Yew

樹高	陽陰	陰	乾	寒	雪	潮	風	公	病	生長	剪定	移植	深さ	広
10~15m	陰									×			深	小

(1) 樹木特性および特徴

- ・ 北海道は自生地。樹皮は赤褐色で浅く縦溝が入る。
- ・ 葉は偏平な線型で、イチイでは扁平状に、変種のキャラではらせん状に互生する。
- ・ 雌雄異株で、雌花は緑色、雄花は淡黄色で、4~5月に葉脈につく。9月ごろから果実が赤く熟し、甘く食べられる。

(2) 環境条件への対応

- ・ 生長は遅い、耐陰性があるが、日当たりでもよい。
- ・ 適潤で、肥沃な深い土壌を好む。土質は比較的選ばない。
- ・ 耐寒性あり、耐潮性は中程度、大気汚染にはやや弱い。
- ・ 刈込み、剪定に耐える。
- ・ 根は深く、広さは中程度、移植は容易である。

(3) 発生し易い病虫害

- ・ スス病、カイガラムシが付きやすく、スス病を併発して真っ黒になりやすい。
- ・ ナガチャコガネの幼虫により、根を食害されて枯死することが多い。

(4) 樹木導入の経緯

- ・ 街路樹としては、円山の第一鳥居付近に象徴的に数本植えられている程度である。
- ・ 中央分離帯や植樹帯などではよく植えられている。

(5) 参考となる主な路線

- ・ 北1条通り円山第一鳥居付近。

管理の特性

(1) 管理の特性

= 管理全般 =

- ・ 生長が極めて遅いので、成木を植栽しても整枝・剪定が必要になるものではない。
- ・ 刈り込み樹形の中低木では、一年に一度の刈り込みによって樹形の維持が必要である。

= 生育初期管理 =

- ・ 活着には時間がかかり、根が張ってくるのに最低でも3年は必要である。
- ・ その後新梢の伸びが始まった頃を見計らい、支柱を撤去する。特に刈り込みものでは枝の中に三本支柱を潜らせているために、撤去し忘れることが多いので注意が必要である。

= 生育盛期管理 =

- ・ 生長は遅いので、植えたときの樹形の維持が主目的となる。
- ・ 庭木ではないので、特別樹形を崩す徒長枝以外は切る必要はない。
- ・ 太い枝を切り詰めても萌芽枝は発生しないので、むやみに切り詰めない。
- ・ 刈り込みが必要な場合には、生長の止まった8月から9月にかけて作業する。

= 老齢期管理 =

- ・ 寿命が極めて長いので、衰弱することはない。
- ・ 樹幹の材は極めて緻密で腐朽しにくく、たとえ傷んでも辺材のみでも生き延びる強い生命力を持っている。

(2) 目標とする将来像(樹形など)

- ・ 自然樹形：広円錐形に整っている。
- ・ 剪定樹形：刈り込みものでは円錐形(頂部がゆるやかにすぼまった整った樹形)。



円山第一鳥居の付近に植えられているイチイの街路樹



植樹ますへの刈り込みイチイの植栽例
(今金町内)

(3) 維持管理上の注意等

- ・ イチイの刈り込みは、枝の伸長する初夏から夏に行うと、切り口が褐変して見苦しく、土用芽がまた伸びて見苦しくなる。
- ・ 伸びが止まったお盆過ぎに刈り込むと、その後の枝の伸びもなく、見た目も緑で美しい。